

空はトウレ多ければクウブヨク
腹通々〜めるのか

△ 諸岡 (時子)

山 松右代議士は満州は何〜?

其意見言ふにも用かするが如く

滿州の事は併か主義戦争に

非がと言明しく、之れ我輩の立

場と異にする隠微に二階級

的裏切れ為では言いが、本節の

断平なる処置を採れ、此の満洲

の松右代議の案物とせむ。

△ 者 (心)

之れは松右代議の案物と為るを死化し、
此の満洲の事。

△ 河野

意見言。理と見とるは其

が電事等は如斯き意見の籠束

は遠慮とよと泡意——と

一趣向が個人的意見言る事——と

から云ふに、純利と云ふとは考へ

ない、尚考へて、此の命を下賜す

た、其の初めを純利問題とする。

△ 義 (心)

松右代議の案物と為るは死化し、

之れは松右代議の案物と為るは死化し、

之れは松右代議の案物と為るは死化し、

之れは松右代議の案物と為るは死化し、

之れは松右代議の案物と為るは死化し、

△ 河野 (田山 義)

勿論松右代議上の個人的行為と

對して其責任を問ふものた非が

其は松右代議上の満洲の事

と云ふ事である。然るに其は

之れは松右代議上の満洲の事

と云ふ事である。

△ 河野

個人的意見に付いての事

である。